

第1回 WHOヘルスプロモーションへの招待

順天堂大学名誉教授・広島国際大学客員教授
日本ヘルスプロモーション学会会長
日本HPHネットワークCEO

島内 憲夫

1. はじめに

「世界の人びとは健康のために一体何を試みて何を編み出してきたのか?」。これが私の最大の疑問であった。

1986年にWHOの提唱する21世紀の健康戦略である「ヘルスプロモーション」という夢のような概念に出会った時、その疑問が解け始めた。それは、「ヘルスプロモーションの最大の敵は貧困であり、究極の目標は平和である」ということに気づいたからである。今、日本はもとより、世界ではCOVID-19（新型コロナウイルス感染・変異ウイルス感染）が猛威を振るっているが、実は、ヘルスプロモーションが登場してきた大きな理由は、今からおよそ半世紀前の1970年代に感染症が少なくなり、感染症対策からがん、脳卒中、糖尿病などのメタボリック・シンドロームの予防を目的とした「生活習慣病対策」が国民的な課題となったからである。しかしながら、それ以上に最も重要な課題は「貧困対策」であり、究極の目標は「平和」なのだということを、われわれは理解しなければならない。この点をしっかりと根底において、健康課題にとりくんでいかなければならない。

日本では発展途上国と先進国の関係をあまり意識していない。しかし地球サイズで見れば、先進国は北半球、発展途上国の多くは南半球にあるが、寿命ということを考えてみると発展途上国は50歳前後、先進国、とくに日本は80歳の寿命である。寿命から見ても発展途上国と先進国との間には30歳の健康格差があることに気づく。このように「貧困」「平和」「健康格差」といった視点も視野に入れておかなければならない。

2. ヘルスプロモーションの国際的動向

(1) 世界のヘルスプロモーション発達史

ヘルスプロモーションの考え方は、1948年にWHO（世界保健機関）が設立されたが、その2年前（1946年）に世界の健康の専門家が集まって、健康憲章「健康とは、身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態であって、単に病気が虚弱でないだけではない」を提唱した時から始まっている。

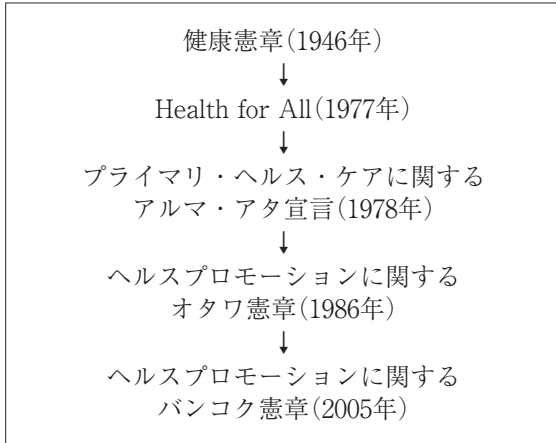
1960年代は、LeabelとClarkによって一次予防の中にヘルスプロモーションが位置付けられていた。この時代のヘルスプロモーションは感染症予防における一般的な抵抗力の強化や、健康教育によって感染機会をさけることであった。

1970年代は、Laronde（ラロンデ、カナダの保健大臣）報告が提唱された時代であるが、この時代は医学、とりわけ疫学的なアプローチによって、心臓疾患やがんなどの成人病の予防教育や、喫煙や栄養などのリスクファクター（危険因子）に関する情報提供や教育がなされていた。

1980年代はWHOの「ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章」の提唱によって、単なる個人への予防教育を超えて、社会科学的アプローチを前面に押し出した「総合的な健康政策」が展開された。これによって、「個人技術の開発」はもとより、「地域活動の強化」、「健康を支援する環境づくり」、さらにはこれらの活動を包含した「健康的な健康政策づくり」にまで健康戦略は拡大された。これらはWHOヘルスプロモーションの5つの活動であるが、このことについては、次回以降に説明する。

1990年代はヘルスプロモーションの考え方が、より具体的なものになり、人びとが生活し出会う

表 ヘルスプロモーションに至るプロセス



場である家庭、学校、職場、病院、地域、街の各レベルにおいて健康を支援するプログラム (Settings for health promotion) が展開されるようになった。

2000年代は、ヘルスプロモーション活動が科学的に評価される (EBM) とともに人びとの物語を評価 (NBM) し、その証拠に基づいて人びとが主体的に活動する姿が地球的な規模で見られるようになってきた。

(2) WHOヘルスプロモーション・ムーブメント

このような世界的なムーブメントになった「ヘルスプロモーション」とは、いったいどのようなものなのか。焦点をWHO活動に絞って考えてみたい。

1) 健康のルネッサンス

WHOのオタワ憲章は、「健康のルネッサンス」と呼ぶにふさわしい歴史的なできごとであった。ルネッサンスとは、本来「再生」または「復興」を意味する言葉であるが、周知のように中世ヨーロッパに起こったギリシャ・ローマ文化への「復興」をめざす言葉でもある。しかし、それははるか昔に帰ろうとする回顧的運動ではない。古典の真の姿の中から新しい人間に対する見方、新しい世界に対する考え方を見いだそうとする革命的、かつ積極的な運動であった。WHOの歴史をふり返ってみれば、1946年にニューヨークで開催された国際会議において「世界保健機関憲章」を採択し、その前文において「健康の定義」をうたったのが、世界の人びとの健康運動の端緒であった。「健康

とは、身体的・精神的および社会的に完全に良好な状態であって、単に病気や虚弱でないだけではない。」各国の保健医療従事者は、このWHOの健康の定義を精神的支柱として、今日まで、国内はもとより世界の人びとの健康を守り高めようと努力をしてきた。

2) ヘルス・フォー・オール

(Health for All by the year 2000 : 1977)

WHOは、1977年の世界保健総会において、「紀元2000年までにすべての人々に健康を」(Health for All by the year 2000) を基本目標にして、翌年の1978年にその具体的な健康戦略として「プライマリ・ヘルス・ケアに関するアルマ・アタ宣言」を提唱した。

3) プライマリ・ヘルス・ケアに関する

アルマ・アタ宣言

旧ソ連のアルマ・アタで発展途上国向けの健康戦略として提唱された「プライマリ・ヘルス・ケアに関するアルマ・アタ宣言」は、限られた資源を有効に活用しながら住民の主体的な参加によって人びとの健康を確保していこうとした画期的なものであった。

「プライマリ・ヘルス・ケアとは、地域に住む個人や家族にあまねく受け入れられる基本的ヘルス・ケアのことであり、それは住民の積極的参加とその国でまかなえる費用で運用されるものである。プライマリ・ヘルス・ケアは、それが核となって構成されている国のヘルス・ケアおよび地域全般の社会経済開発などの一つの必須部分をなすものである」。この定義に見られるように、プライマリ・ヘルス・ケアは、その国とコミュニティーで供給できる費用によって動かすことのできる、実践的かつ確実性と社会的に受容される方法を備えた必須のヘルス・ケアである。コミュニティーの人びとはその中に含まれるべきである。

参考文献

- 1) 島内憲夫：WHOヘルスプロモーションへの招待、2-7、2007。
- 2) 島内憲夫・鈴木美奈子：ヘルスプロモーション～WHOオタワ憲章～、2013。
- 3) 島内憲夫・鈴木美奈子：ヘルスプロモーション～WHOバンコク憲章～、2012。